

〔様式 1〕

事務事業評価表

1～11までは、担当課による評価

記入年月日	平成15年3月25日			
平成15年度	事業コード	15110	電話	042-754-3604
担当部課名	生涯学習部	図書館	奉仕	係
事務事業名	視力障害サービス経費			

1 総合計画における位置づけ

政策名	第5章	いきいきとした生涯学習社会をつくれます	事業開始年度
基本施策名	第1節	生涯学習の推進	63以前年度
施策名	第1施策	生涯学習機会の充実	

2 実施根拠及び関連法令等

図書館法、市図書館条例、録音図書等貸出実施要綱

3 事務の区分

自治事務

4 経費の区分

義務的経費

5 事務事業の分類

市単独事業

6 受益者負担

なし

7 事業概要

(1)事業の目的...何をどのように(どのような状態に)したいのか	(2)対象(誰、何)
視覚障害者等に配慮した施設整備及び録音図書、点字図書、大活字本などの資料の充実並びに拡大読書器などの整備を図る。	市内在住視覚障害者
	対象数 959人(平成14年度)
(3)平成14年度事業の内容...市が実際に行った事業の内容	
障害者用図書資料(録音図書、点字図書、大活字本など)の充実を図った。 ・録音図書 1669点(106点増) ・点字図書 281点(60点増) ・大活字本 754点(7点増)	
(4)個別計画の概要	概要
計画名	なし
計画年次	年度～年度

8 評価指標...事業の目的達成度を計るための指標

15,16年度は目標値

成果指標	指標名	指標式	指標設定の意図	指標の推移(年度)				
	蔵書増減率	本年度蔵書数÷前年度蔵書数×100	蔵書増減率から障害者用図書資料の充実度をみる。	12	13	14	15	16
				109	113	107	102	102
活動指標	貸出増減率	本年度貸出数÷前年度貸出数×100	貸出増減率から視力障害サービスへのニーズの多さをみる。	106	114	111	102	102

9 事業費等の年度別状況

〔金額単位：千円〕

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
	決算	決算	決算	予算	予算(見込み)
事業費	459	472	483	294	294
決算(予算)額	459	472	483	294	294
人員・時間数	5人・2時間	5人・2時間	5人・2時間	5人・2時間	5人・2時間
人件費	42	42	42	42	42
その他経費	0				
合計	501	514	525	336	336
特定財源	0				
対象数	937	941	959	959	959
対象の単位あたり経費	0.5	0.5	0.5	0.4	0.4

10 個別評価

(1)達成度 評価 A ▼	A：達成している	チェック項目	・成果指標の達成度 <input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	B：一部達成していない		・活動指標の達成度 <input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	C：達成していない		・事業目標の達成度 <input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
		説明	蔵書増減率、貸出増減率のどちらにおいても、順調な伸びを示しているが、予算削減となる平成15年度以降の達成度を保つのが課題となっている。
(2)必要性 評価 A ▼	A：適応している	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・市民や社会のニーズにかなっている
	B：一部適応していない		<input type="checkbox"/> ・状況の変化(対象や内容)に対応している
	C：適応していない		<input type="checkbox"/> ・当初設定した事業目的が達成されていない
		説明	ノーマライゼーションを標榜する現代社会において、障害者サービスはニーズに見合ったものであり、生涯学習の推進にも適応している。
(3)有効性 評価 A ▼	A：有効である	チェック項目	<input type="checkbox"/> ・上位の施策、計画目的達成のために有効である
	B：一部有効でない		<input checked="" type="checkbox"/> ・期待された成果が得られている
	C：有効ではない		
		説明	サービスの提供件数の伸びが認められ、教育機関の活動として有効と考えられる。
(4)効率性 評価 B ▼	A：優れている	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・予算や人員に見合った効果が得られている
	B：一部改善の余地がある		<input type="checkbox"/> ・他市と比べてコストや効率性が優れている
	C：改善の余地がある		<input type="checkbox"/> ・他の類似事例と比べてコストや効率性が優れている
		説明	比較的低廉な予算で、効果が得られているが、市内の保健と福祉のライブラリーとの競合についての問題をどう考えるかが大きな課題である。
(5)公平性 評価 A ▼	A：公平である	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・対象者と非対象者との不公平・不均衡は、妥当な範囲である
	B：一部公平でない		<input type="checkbox"/> ・受益者の費用負担は適正である
	C：公平でない		<input type="checkbox"/> ・対象者の設定は適切である(年齢や所得等を考慮している)
		説明	受益者の費用負担は無く、不均衡は生じない。
成果向上の余地		事業費削減のために取り得る手段と削減額	
<input checked="" type="checkbox"/> ある	説明： サービスの対象者を「視力障害者」だけでなく「視力の弱い高齢者等で障害者認定を受けていない者」まで広げ、市民サービスの向上を図るとともに、サービスについての市民へのPRを行ない、サービス利用者を増やす。	手段	録音図書の扱いを一般図書と同じくすることによって、正規職員でなく非常勤職員等でも、業務に従事することができるようにし、人件費の削減を図る。(仮に、正規職員2人、非常勤職員3人の体制に変えると下記のとおり)
<input type="checkbox"/> ない		削減額	20 千円

11 総合評価

評価	A ▼	他自治体の類似事業との比較
		鎌倉市、茅ヶ崎市、厚木市、大和市等の県下各市と比べ、資料の所蔵数が少なからず劣っており、改善が望まれる。
今後の進め方		
<input checked="" type="checkbox"/>	継続	総合評価に関する説明
<input type="checkbox"/>	見直し	蔵書状況やその利用状況においては、一定の拡大状況が見られ、継続する意義ありと判断する。ただ、それだけにとどまらず、サービス受益対象者の拡大(録音図書などを一般図書として制限無く貸出すのも、その一方法と考える)や、保健と福祉のライブラリーとの住み分けを検討していく必要がある。
<input type="checkbox"/>	廃止	
<input type="checkbox"/>	完了・廃止済	

12 二次評価コメント

--